

大腸癌術後回復—大建中湯

文献

今津嘉宏, 渡辺賢治. 漢方の消化管手術における臨床成績. 臨床外科 2008; 63(4): 479-86.

1. リサーチクエスション (research question)

大腸癌の患者の術後治療を目的とした、大建中湯の投与の費用対効果を、投与なしを対照とした費用結果分析法により評価する。

分析の立場 : 記載なし (医療費支払者?)

2. 対象集団と介入 (interventions)

対象集団 : 1997~2002年の6年間に慶応義塾大学病院外科で大腸癌手術が施行された患者 469例。

介入群 : 大建中湯投与 343例 (開腹手術 164例、腹腔鏡下手術 179例)

対照群 : 大建中湯非投与 126例 (開腹手術 73例、腹腔鏡下手術 53例)

3. セッティング (location/setting)

日本、病院 (外科・入院)

4. 方法 (methods)

・コスト : 直接コスト (医療費: 療養の給付+食事療養)。データ収集期間は1997-2002。

・アウトカム : 術後入院日数。データ収集期間は1997-2002。

・割引率 : 記載なし。

5. 結果 (results)

		コスト (JPY)		差分の検定	アウトカム	
		医療費(Mean±SD)			術後入院日数	差分の検定
開腹手術	投与群	174万 8,152±66万 1,306	p=0.611	15.2±5.6日	p<0.05	
	非投与群	180万 4,706±102万 2,357		17.3±6.0日		
腹腔鏡下手術	投与群	130万 1,639±38万 5,484	p=0.030	10.6±5.5日	p<0.001	
	非投与群	145万 905±57万 9,902		14.9±7.3日		
全体	投与群	151万 5,132±57万 9,368	p=0.045	12.8±5.5日	p<0.0001	
	非投与群	165万 5,885±87万 9,026		16.3±6.6日		

・術後入院日数に関して、開腹手術、腹腔鏡下手術、全体のいずれの場合でも投与群は非投与群より有意に短かった。

・医療費に関して、腹腔鏡下手術と全体の場合で大建中湯投与による有意な医療費節減効果が認められた。

6. 著者の結論 (authors' conclusions)

・消化管手術において漢方治療が医療経済へ貢献することが明確された。

7. Abstractor のコメント

・著者らはレトロスペクティブの臨床成績の評価を行い、大腸癌の術後治療で大建中湯投与によって入院日数を減少し、医療費を節減する可能性を示唆した。

・6年間の医療費の計算にあたり、用いた具体的な割引率は報告されなかった。

・大建中湯以外の併用薬の使用状況は報告されず、評価結果にバイアスが入る可能性がある。

・開腹手術、腹腔鏡下手術、全体のそれぞれの場合で投与群と非投与群の統計検定をしたが、検定の多重性は考慮されていない。

8. Abstractor and date: 唐/五十嵐 2012.3.5